道教の特質及び其影響

文學博士　井上哲次郎

道教は、既に小柳君の演說あり、略ぼ要點を盡くされた。されば今道教の特質及び其日本に於ける影響を陳べませう。道教は、支那固有の一宗教でしかも支那民族と離る可からざるの關係がある。換言すれば、支那民族の宗教心のあらはれである。道教の次第に勢を得しは、漢以後なれど其の原因由來を繹ぬれば勿論周末の老莊列諸子の教にあるとのことである諸子の中にも老子は其大本である、しかし老子の思想亦決して彼に始まつたものではなくして、古くよりあつたものである。彼の管子の如きも既に遙かに是れより以前の人なれとも似よりたる考を持つて居つたのである。しかのみならず更に遙かに溯れは彼の許由巢父等の譚あるに思ひあはすべきである。斯の如く、道家者流の徒往々既に世にありしこと、知るべきである。太公望等にも其風見え、或は遙か上代の黃帝に關する傳說にも思想が見ゆるのである。兎に角道教は支那民族の古くより有したる思想の流れであつて、儒教とは餘程異つた所がある。儒教は一の學派としては孔子より始まり、其以前には一派の形を成し居らない。道教には老子以前にも既に之に似たる思想ありて彼に始まりたるものにあらずと思はる。儒教は一國の帝王卿大夫學者學生等、中流

以上の教育ある者の間に、行はれた德教だけれども、道教は上流に限らず、廣く民間の信仰となつて居て、それが次第々々に宗教の形をなして發達したのである。老莊列等によりて傳へられた哲理の中に後の道教の由て來る所の萠芽が既にそなはつて居た、例へば人力よりも自然力にまかせるといふ考、身を大切にすること卽ち利己的の考、俗世界より離れて己一人を淸淨にする考、方法によりては隨分不可思議の境遇に達し得らるゝといふ考等は、老莊列等の哲理中に含まれしが、後の道教にいたりて發達した。勿論大に變形したけれども、道教と老莊と無關係にあらざりし事は知り得らるゝのである。

秦の時の方士徐福等は道家者流の一派である。長生不死の藥を求むるは利己的の考である。漢時にありても道教の發達の形迹があつて、後に佛教の輸入せらるゝに及んで、之と競爭し、次第に宗教の形を成して發達した、――固より支那民族の宗教思想のあらはれないとも、――佛教と屢々軋轢して、之と理論を爭ひしことありしも、其徒の學識不足のためか、其點に於ては佛教徒に及はざりしも、實地に於ては其勢力中々多大であつて、佛教に劣らざりしのみならず、現在は宗教として其勢力却て彼にまさるの觀があるのである、是は一見不思議のやうなるも、支那民族の宗教心のあらわれなれば、當然の事であつて此民族の存在せん限りは、其固有の道教は存續するならんと思はる。但し同民族が非常に智識的に發達としなば道教も隨て大に醇化さるべきも、大多數の愚民の迷信なれば、今日のままでも中々急に亡ぶこはあるまい、又或時代卽ち漢魏六朝にかけては徐程仙人傳說が出來た、仙人は先秦時代には殆んどなく、

あまり史籍にも見えない、漢の武帝以後仙人の譚かだん〳〵起り、六朝の頃に至るまで、餘程さまざまの傳說ができた。又實際仙人たらんことを試みし者も尠くない、華山之下白骨纍々とは其不成功者のはてであつたのである。

東晉の葛洪が抱朴子中には仙人の事多く見ゆ、特に彼の煉丹や點石爲黃金の術も見ゆ、此術の事は前漢の武帝の時流行せしが、此書に記載せられてある。又長生不死の術に就ても其煉藥の調劑とともに此書に記してある。つまり仙術は養氣、延壽、煉金、服餌の四法を其主としてある。是皆利己的の意味ある養生法であつて、儒敎の一身を抛て社會を救はんとする思想とは異つて居る、卽ち自分一人の生命を永久に延ばす考に基いたものである。彼のメチニコッフ氏は道敎の說を引きて長命不死を論じ、人間の次第に老え終に死するに到るは、腹中に有害の微生物(ミクロープ)卽ち細菌の生ずるためだから、之を殺す物を服すれば、長命不老の狀態を保全することができるとして、ヨーグルート乳を勸めた、——此乳は既に我日本にも頗る流行するにいたつた——卽ち此式の乳の普及流行は此說の結果である。是は大腹中の有害なる細菌をヨーグルート菌が殺すためで、之を飲用する其地の人民が長命なるを發見せしめたのである、人の早老や病氣を防ぐ藥は卽ち不老不死の藥である。彼の仙人者派の徒の空しく斯藥を索めたのは理由がないではない、たゞ成功せざりしのみである、長命不死の藥を飲用せしため却て崩せし帝王もありしことがある。しかし「吸烝」の術に於ては彼等はたしかに成功した、それは今日の深呼吸術にして、山嶽の

最も空氣のよき所にて深呼吸をしたのである、其方法につきては胎息經の如きは其一例である、所謂仙人の吸霞とは深呼吸を意味したものである。又臍下三寸にして丹田有りとのことも抱朴子に見ゆるもので、佛教より來つたものではない――但し印度にも少し似たる說ありしならんも――又儒教にも此の如きことは發達して居らない。仙術は道教中一派をなしたるものにて、仙人者流は道教中の神秘的狀態を事としたものである。しかし成功せずして（極端の方法に於ては）、今日ではたゞ昔物語中に見ゆるのみである。

道教の影響中注意すべきは我日本に其影響を及ぼしたことである。日本には純粹の道教其ものとして入り込まざりしも、宗教上にも、藝術上にも、文學上にも、其影響を及ぼせしは否定すべからざるものである。宗教上には修驗道に影響した、特に其初期に於ては其影響多大にして、其徒は頗る仙人者流を學んだ、――山岳を登攀し、無人地を跋涉し、新鮮の瀕氣を呼吸する等、種々の點に於て、――全體としては修驗道の山伏等は道教の方士に頗る似たる所がある、役行者及其他の行者の行は頗る道教の徒に似ておる。修驗道は後に佛教の一旁派となりたるも、其初は道教の勢力に影響せられたこと多大であつて、一時は道佛を混融したやうな宗派であつた。道教の符錄は妙な圖を畫いたもので、之を持ちて山に入れば、山の靈も祟をなさずといはれてある、抱朴子に其圖見ゆ、我國の御札及護符の類は其影響ならんと思はる。

道教の思想、寧ろ老莊列等の思想卽ち自然に任かせる自然主義は、我國の復古神道に影響したのである。賀茂眞淵、本居宣長の說の如きにも此閃きが見ゆ、是れは當時我國の敎育ある社會を風靡しありし儒敎に反抗せんためばかりではなく、本來我原始神道には自然神道の思想があつて道敎と結び易きためもありしならんと思はる。卽ち、斯の如く道敎思想は復古神道に影響を及ぼしたことがあるのである。

道敎は藝術就中繪畫(和漢を通して)特に其山水畫に最も多く影響を及ぼした。卽ち山水畫中にあらはる、人物は外く仙人道士隱者の類である、仙者が岩窟中に圍棋の圖、隱者が山間の溪流湖水に釣魚の圖、山間の樓閣上に淸談を試むる圖、琴を抱きたる童子を隨ひて圯橋を渡る圖等の畫題尠少でない、是れ道敎の影響を受けたもので、其他直接に種々の仙人其者を畫いたものも無論多い、蓋し其平凡ならざる所や、想像的の者たるは、從來和漢の畫家に對して好個の畫題を與へたものである。又特に文人畫の如きは常識的の儒敎思想や其生活を寫すに適せずして、道敎の高逸蕭散の趣を傳ふるによろしいものである。

詩の中にも道敎の趣あるものが少くない、特に田園雜興、若くは山間の僻村生活を陳べしものに多い。我有名の詩人廣瀨淡窓の如きも老子を愛讀し、道家者流の思想あるは、彼の詩情の之と一致する所多きためでもあらう。

さりとても柳は同じ綠なり

夫本邦之帝胤、萬世傳繼不易、

此一事、可爲吾邦之一大美事、

萬世不易法、而中華暨諸夷之

所以不及也(愼思錄)